



豊橋市

DATA

【人口】 370,923人 (R4.12.1現在)
【面積】 262.00平方キロメートル
【職員数】 4,822人 (R4.4.1現在)

《発表のテーマ》

RPA作成による事務作業の自動化

<発表概要or今年の特徴>

事務を職員が行うのではなく、RPAが自動で入力作業等を行うようにRPAの作成技術を学び、一から作成しました。具体的に3点のRPAを紹介しますが、他の事務作業にも生かすことが可能だと考えています。

<改善運動の特色やアピールポイントなど>

豊橋市では「トヨハシWe Do活動」という名称で業務改善運動を展開し、庁内改善風土の醸成を図っています。毎年「1課1改善」を実施しており、今年度は109の取組が報告されました。例年、市長の審査を経て最優秀事例を決定し、表彰していますが、今年度は職員が選ぶ最優秀事例を決定すべく、新たに職員投票も実施しました。投票には912名の職員が参加し、大いに盛り上がりました。

<メッセージ・意気込み>

豊橋市では職員がRPAの知識を深める目的で研修を行ったりRPA作成マニュアルを職員へ提供しています。私自身プログラミングの知識は全くありませんが、専用のソフトウェアにより、ソースコードの代わりにコマンドを用いて、簡単にRPAを作成することが可能です。そのため、他の自治体でも取り入れやすいものだと考えています。今後多くの自治体がRPAを導入し、職員の事務負担の軽減に繋がればと考えています。



吉田城鉄櫓（夜桜）

部署名

愛知県 豊橋市 福祉部 生活福祉課

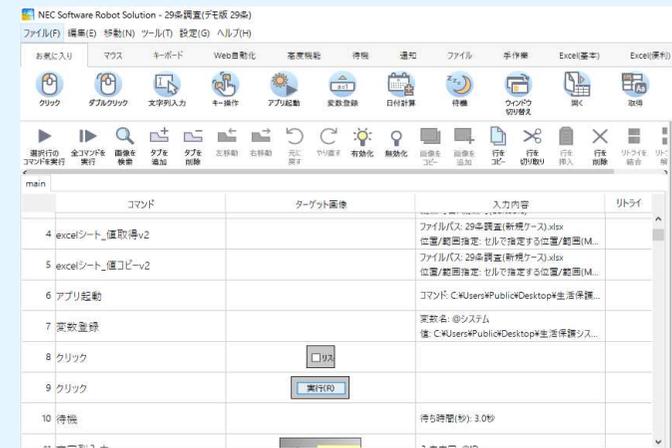
タイトル

RPA作成による事務作業の自動化

改善前
【Before】

生活保護に係る書類を作成・印刷する際、職員が端末に必要情報を手入力して行っている。その事務に係る職員の負担軽減に繋がる取組がしたいと考えていた…

庁内の**RPA**研修に参加!!



取組内容

3点の事務について、**RPA**を新規作成し業務を自動化した。

① 生活保護システムにて行う依頼文・回答文の作成

生活保護の申請があると、複数の金融機関等に対して申請者の預貯金状況、生命保険への加入状況、年金の受給状況等の調査を行う。起案用紙、依頼文、回答文の作成及び印刷は、生活保護システムで行っているが、システムへの必要情報の入力及び印刷作業は職員が行っていた。

⇒**RPA**専用で作成した**Excel**ファイルに申請者の情報を入力し、**RPA**を実行すると情報を読み取り、起案用紙・依頼文・回答文の作成及び印刷を自動で行う。

取組内容

②調定決議書・納入通知書の作成

生活保護受給者が臨時で大きな収入を得た場合、生活保護費を返還決定する。その際に財務会計システムへ手入力し、調定決議書・納入通知書を作成していた。

⇒RPA専用に作成したExcelファイルへ必要な情報を入力し、RPAを実行すると情報を読み取り、自動で調定決議書・納入通知書を作成する。

③返還金の納付状況確認

財務会計システムへ必要な情報を手入力し、生活保護受給者の納付状況データを抽出していた。

⇒手入力していた情報をRPAに覚えさせることで、自動で納付状況データを作成する。

RPAの作成は**NEC**のソフトを使用!!



効果
【After】

(改善の成果
・取組の効果)

☆職員の事務負担の減少

☆年間総削減時間 約129時間

①生活保護システムにて行う依頼文・回答文の作成

1件あたりの削減時間：15分 - 3分 = 12分

年間削減時間：400件/年 × ▲12分 = ▲80時間

②調定決議書・納入通知書の作成

1件あたりの削減時間：10分 - 3分 = 7分

年間削減時間：400件/年 × ▲7分 = ▲46時間

③返還金の納付状況確認

1件あたりの削減時間：10分 - 3分 = 7分

年間削減時間：24件/年 × ▲7分 = ▲3時間